

咽頭結膜熱（プール熱）

夏かぜ症候群と呼ばれるものの代表は手足口病、ヘルパンギーナ、そして咽頭結膜熱（いわゆるプール熱）です。夏かぜ症候群は真夏だけに多いのではなく、だいたい5月～6月頃には増えはじめます。

今回は咽頭結膜熱（プール熱）のお話です。手足口病とヘルパンギーナについては大野先生が別にご書いていますのでそちらをご覧ください。

以前はプールに入ってうつると言われましたが、最近ではプールの塩素濃度が高いので学校やスイミングスクールのプールで流行る病気ではありません。ただし、家庭用のプールは別です。また、プールに入らなくてもうつります。

症状

「咽頭結膜熱」という病名からわかるように

- 1 「咽頭」=のどが赤くなり、痛みが強いです。扁桃腺も赤くなり、白いもの（膿）がついたりします。よだれが出たり、食欲が落ちたりもします。
- 2 「結膜」=目が赤くなりますが、目の症状があまりない場合もあります。
- 3 「熱」=実はこれが一番つらいかもしれません。熱は39～40℃の高熱が4～5日続きます。1週間以上続くお子さんもいます。
- 4 その他にはきき、腹痛や下痢などの胃腸症状が出る場合もあります。

原因と診断

原因はアデノウイルスというウイルスです。診断はのどを綿棒でこすって付いた粘液を迅速検査キットを使って診断することが多いですが、流行っている時には症状だけで診断することもあります。

治療

ウイルス感染なので、抗生剤は効果がありません。熱やのどの痛みをおさえる薬で様子を見ることになります。おうちで大事なことは水分を十分とって脱水にならないようにすることです。のどが痛くなるので、食べ物や飲み物をとりにくくなりますが、プリンやゼリー、ヨーグルト、アイスなどロ当たりのよいものを与えましょう。

熱は午前中に少し下がったと思っても、夕方くらいにはまたあがってきます。特に夏の夜は暑くて寝苦しいので、涼しい格好で過ごしてください。

のどが痛くて水分がとれなかったりぐったりしている場合、せきやたんがひどい場合はもう一度受診をしてください。

おうちでは手洗いを十分におこない、一緒のタオルは使わないようにしましょう。熱がさがり、のどの痛みがなくなってから2日間は保育園・幼稚園や学校を休ませるようにしましょう。

2010.5
高嶋 能文



たかしま よしふみ
高嶋 能文

山梨医科大学卒
日本小児科学会専門医
日本血液学会血液専門医
日本がん治療認定医
日本感染症学会会員
日本エイズ学会会員

自由が丘メディカルプラザ 小児科

東京都目黒区自由が丘 2-11-16
ニューパルビュー3F
TEL: 03-5731-3565

<http://www.jiyugaokamp.com/s>